

西原の方言調査

幸地編

幸地では、沢岬ヨシさん、

仲宗根ツルさん、翁長次郎さん、比嘉千代さんといった方々から、方言調査を行うなかで、昔の幸地のことや学校のようなお話しをうかがいました。

次郎さん：幸地の部落は、戦前ノー靴ンデーアツカランドー（戦前は道が泥んこで靴はいて歩けなかったよ）。



△（左から、比嘉千代さん、沢岬ヨシさん、翁長次郎さん）

ツルさん：はずかしい。フチユクルンカイ、イツテイ（靴を）ふどころに入れて）。

首里の町までいってから、首里高校の手前に水車があったわけ、あっちで足洗ってあっちから下駄はいて那覇ンカイ。アタラサーしてよー、ハジカサン（靴を）大事にしてよ、はずかしい）。

次郎さん：こら辺は雨ふつたらここまで（膝あたりを指さして）つかりよつたよ。道は悪かったよ、自転車も一台くらいしかなかった、戦前は

※幸地の地質は泥岩質なので、車の車輪が泥にはまったら出られなくなるほどです。また、幸地、棚原の子どもたちは雨が降ると泥だらけになる坂道を通って学校に通ったので、足腰が鍛えられ運動会では大活躍したという話もあります。

ーヨシさんのときは学校はどこにあったんですか？

ヨシさん：（西原）中学校の隣の、給食センターの。

千代さん：一年から二年生まではそこで。三年生になったらミーガツコウ（新学校）といつてね。フルガツコウ（古学校）とミーガツコウがありましたよ、あのころは。

ーこのフルガツコウの名前はなんていうんですか？

千代さん：分舎という。次郎さん：あれからミーガツコウつくつた、西原高等尋常小学校。

ヨシさん：今の中学校のところが本舎でした。（私が）二年ナタクトウテ（二年になって）、あの屋比久シエンシエイ、ウリガベントーバコ、私がベントーバコアラヤーシーヤー（屋比久先生の弁当箱を私が洗った）。

ーヨシさんは何年生まで？

ヨシ：高等科には、いっていません、六年生まで。妹・弟たちが三・四名いるからね、私はいちばん上だから。それたち出してから私はあとから子どももおんぶしてから。子どももおぶって、遅刻して一時間余りも立っていたよ。もうこんなして学校でたらだめだといつて。

千代さん：この年代のおばあちゃんたちは偉いよね！。

西原小学校は明治十五年から開校していますが、開校設立の場所が旧役場跡（現西原の塔）なのか、分舎跡（西原中学校向かい側敷地）なのかはつきりしていないようです（『西原小学校百周年記念誌』）。この件に関してはもつとお話をうかがってみたいと思います。

現代の学生のみなさん、先生の弁当箱を洗ったり子どもをおんぶして通つたりと、昔の学校のように今とは全然違う感じがしませんか？